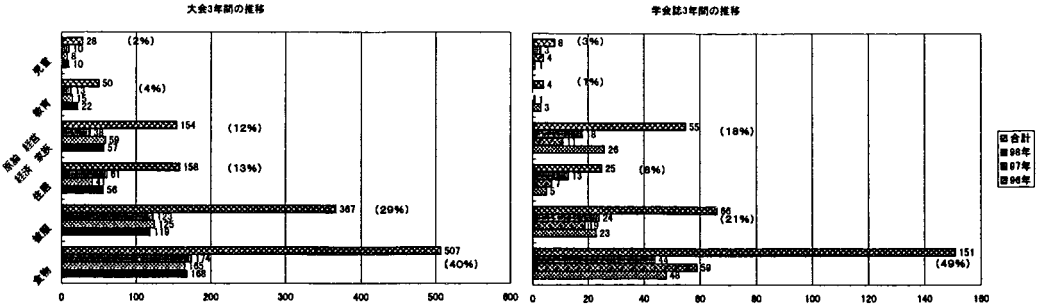
1Fa-2

大会と会誌の発表数にみる家政学内部領域の片寄り

○富田守（お茶の水女子大学），神部順子（貞静学園保育専門学校）

［目的］家政学内部領域の片寄りについて最近の状況を明らかにするとともに、その改善について提言を述べたい。

［方法］最近３年間の家政学会の大会および学会誌について領域別発表数を集計する。

［結果］食物が多く、次が被服領域であり、他領域は少ない。(図参照)
改善法として被服と住居をまとめると食物とのバランスはよくなる。その他の領域を人間活動を扱う群としてまとめると、全体は３群にまとめうる。